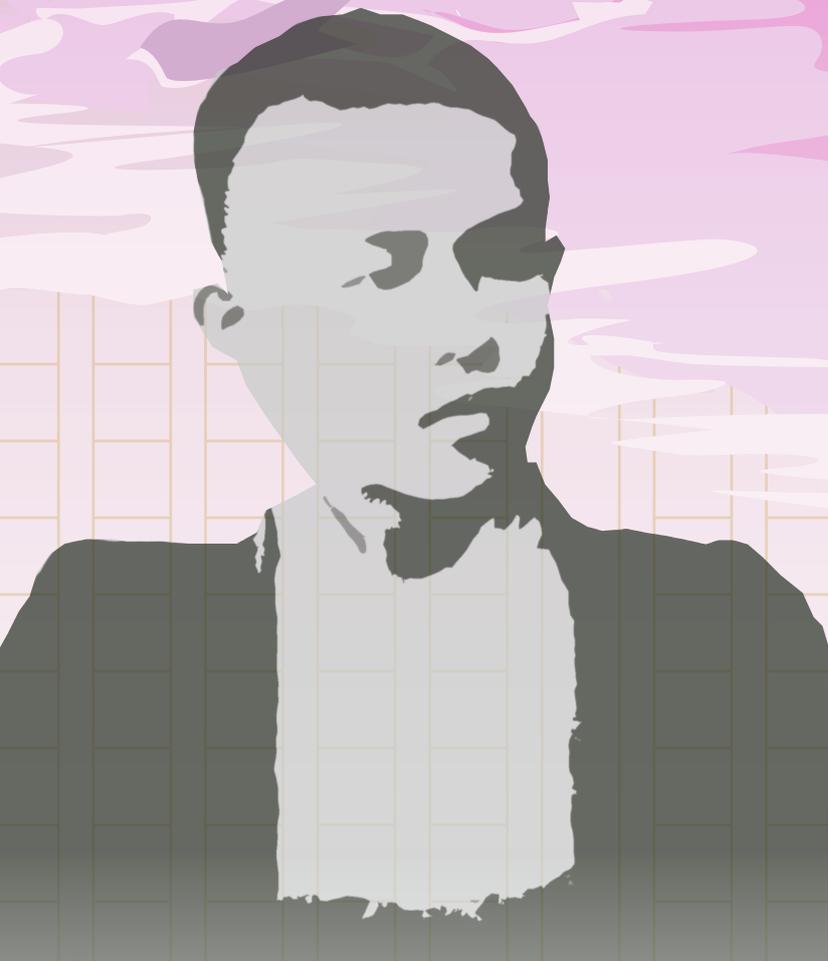


応募締切: 6月13日(金)

消印有効



# 啄木学級

文ふみの京みやこ講座

講演「啄木と私」

同郷の先人啄木への思い

芥川賞作家

若竹わかたけ千佐子ちさこ氏

日時

令和7年 7月4日(金)

午後2時開演 (午後1時開場)

会場

文京シビックホール 小ホール

東京都文京区春日1-16-21 文京シビックセンター2階

若竹 千佐子 氏 (芥川賞作家)

1954年岩手県遠野市に生まれる。岩手大学教育学部卒業。中学校の国語教諭を目指して五年間臨採教員として働くも採用されることなく断念。結婚後は子どもの頃からのあこがれだった作家を夢見て、書くべきテーマを探していた。夫の死を契機にそれが見つかったように思えた。2017年『おらおらでひとりいぐも』文藝賞受賞、翌年同作で芥川賞受賞。ドイツの文学賞受賞。他著作『かつかどるどるど』『台所で考えた』



# 啄木学級 ふみ みやこ 文の京講座 応募方法

往復はがき(1枚につき1名まで)に必要な事項(記入例参照)をご記入の上  
 でお応募ください(文京区在勤・在学の方はその旨を記載)。

※電話・FAX・E-mail等での応募はできません。

※結果発表は返信ハガキの発送をもって代えさせていただきます。

※応募が定員を超える場合は抽選となります。

**!** 応募者1名につき往復はがき1枚が必要です

往復はがき1枚での複数名の応募、記載内容の不備、料金の不足等があった場合は無効となりますのでご注意ください。

応募先 〒020-0871 盛岡市中ノ橋通一丁目1-10  
 (公財)盛岡観光コンベンション協会「啄木学級」係

## 往復はがき記入例

返信はがき / 表面	往信はがき / 裏面	往信はがき / 表面	返信はがき / 裏面	締切日
85 返信	お名前 ご住所	85 往信	020-0871 盛岡観光コンベンション協会	6/13 <sub>(金)</sub> 消印有効
	①「啄木学級」応募 ②郵便番号・住所 ③氏名(フリガナ) ④電話番号		盛岡市中ノ橋通一丁目1-10	受講料 <b>無料</b>
			※この面には何も記入しないでください。	定員 <b>300名</b> <small>(うち文京区在住・在勤・在学者180名)</small>

## 石川啄木 本名 石川 一(はじめ)



1886年(明治19年)2月20日、南岩手郡日戸村(現・岩手県盛岡市)の常光寺で生まれ、翌年、住職である父親の転任により、家族で浪民村(現・盛岡市浪民)の寶徳寺に移り住む。1902年、盛岡中学校を中退して上京し、小日向台町(現・文京区音羽)に下宿。与謝野鉄幹・晶子夫妻から文学の指導を受ける。病を得て故郷へ戻り、1904年、詩集刊行を目的に上京。向ヶ丘弥生町(現・文京区弥生)に居留し、翌年、初の詩集『あこがれ』を刊行。同年、盛岡市に戻り、新婚生活を営みながら、文芸雑誌『小天地』を発行。1906年、浪民尋常高等小学校の代用教員となるが、教師生活を1年間で終え、翌年5月、北海道へ渡る。各地を漂泊ののち、新たな文学活動の展開を願い、1908年4月に上京し、同郷の先輩・金田一京助を頼りに、菊坂町の赤心館、その後、森川町の蓋平館別荘(ともに現・文京区本郷)に下宿。翌年6月、家族を迎えて弓町(現・文京区本郷)の喜之床(現・新井理髪店の地)に移る。一生に二度とは帰って来ないのちの一秒を惜しみ、また、故郷への想いを短歌に表して、1910年12月、第1歌集『一握の砂』が出版された。自由な作風と三行書きの特徴をもつ短歌は、当時の文壇の人々を驚かせた。1912年(明治45年)4月13日、結婚のため、久堅町(現・文京区小石川)にて26歳2か月の生涯を閉じた。2か月後、第2歌集『悲しき玩具』が刊行された。

## 会場までのアクセス



- 東京メトロ「後楽園」駅 丸ノ内線(4a・5番出口)・南北線(5番出口)徒歩1分
- 都営地下鉄「春日」駅 三田線・大江戸線(文京シビックセンター連絡口)徒歩1分
- JR総武線「水道橋」駅(東口)徒歩9分

## 友好都市 - 啄木がつなぐ文京区と盛岡市の絆 -

平成31年2月20日、石川啄木生誕の地である盛岡市と終焉の地である文京区は、啄木生誕の日でもある2月20日にちなみ、教育文化、スポーツ、産業等の交流を促進することにより、両都市の住民相互の理解と友情を深め、持続的な友好が図られることを願い、友好都市として提携しました。これまでに「啄木学級文の京講座」をはじめ、「文京博覧会」や「盛岡さんさ踊り」等を通じた交流が続いています。

## 啄木終焉の地歌碑と顕彰室(文京区)

石川啄木が生涯を閉じた文京区小石川5丁目には、啄木終焉の地を記念する歌碑と顕彰室があります。歌碑には、啄木最後の歌とされる第二詩集「悲しき玩具」冒頭の二首が刻まれているほか、顕彰室には石川啄木記念館(盛岡市)提供の写真や年表、直筆原稿や書簡のレプリカなどが展示されています。

開室時間 9:00~17:00(年末年始、特別閉室時を除く)  
 所在地 東京都文京区小石川5-11-8  
 交通 東京メトロ丸ノ内線茗荷谷駅下車 徒歩7分  
<https://www.city.bunkyo.lg.jp/bunka/kanko/spot/ato/kensyousitu.html>



石川啄木記念館・盛岡市玉山歴史民俗資料館  
 貴重な直筆書簡など、啄木ゆかりの資料を展示。

令和7年4月13日リニューアルオープン

〒028-4132 岩手県盛岡市浪民字浪民9  
 TEL 019-683-2315 FAX 019-683-3119  
<https://www.mfca.jp/takuboku/>

※新たに盛岡市玉山歴史民俗資料館との複合施設になりました。



## もりおか啄木・賢治青春館

1910年(明治43年)に竣工した旧第九十銀行を保存活用して、啄木と宮沢賢治が青春を育んだ盛岡の街と2人の青春時代を紹介しています。

〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通一丁目1-25  
 TEL・FAX 019-604-8900  
<https://seishunkan.jp>



## 啄木新婚の家

石川啄木が堀合節子との新婚生活を始めた家。随筆「我が四畳半」に新婚当時の様子が書かれています。

〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目17-18  
 TEL 019-624-2193

各施設の最新の情報はホームページ等でご確認ください。